九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

街路空間における都市環境装置デザイン方法に関する研究

森田，昌嗣

https://doi.org/10.11501/3164564

出版情報：九州芸術工科大学，1999，博士（芸術工学），論文博士
バージョン：
権利関係：

あとがき

九州芸術工科大学を卒業後，都市環境形成におけるインダストリアルデザインからのアプローチへの関心から，東京芸術大学大学院環境造形デザイン研究室の修士課程に進学した。本研究の端緒は，大学院期の稲次敏郎教授からご教授いただいた，“関係のデザイン”の考え方であった。

その後，GKインダストリアルデザイン研究所（現・GKデザイン機構）の環境デザイン本部（後のGK設計）へ就職し，約13年間にわたる環境デザイン実務に携わった。この実務経験の中で，都市環境の構成要素のデザイン方法についての実践的研究を進めることができた。GK在職中は，デザイン実務はもとよりデザイン研究の思想面を中心に，栄久庵憲司会長から貴重なご示唆をいただいた。また，環境デザインの実践的方法については，GK設計の西澤健社長から終始一貫したご指導をいただいた。特に，GK設計で携わったプロジェクトが，“都市環境装置デザイン方法”研究の契機となり，本研究における事例研究に結びつけることができた。本研究の事例研究の題材となった計画は，多数のGK設計メンバーの共同によるものである。第6章の「集合ポール」開発（著者は企画段階で参画）での田中一雄氏，「大阪市サインタワー」での中井川正道氏，そして「交差点ゲート」での杉下哲氏。第7章の「東口中央通り」では，磯村克郎氏，「晴海通り」での磯村克郎氏，藤田雅俊氏らが共同設計者であった。

この実践における事例研究を進めている時に，九州芸術工科大学での研究活動の好機をいただき，インダストリアルデザインに立脚した環境デザイン＝パブリックデザイン研究に着手することができた。古賀唯夫教授には，九州芸術工科大学への契機をご支援いただき，先生のご在職期間，研究の進め方から調査・分析に関する熱心なご指導をいただいた。九州芸術工科大学に着任後は，本研究における基礎的研究を中心に進めた。基礎的研究においては，当時のパブリックデザイン研究室の大学院生をはじめ，多くの学生達の協力を得た。特に，基礎的研究の調査については，当研究室の初回修了生の古賀健一君（第5章の公的サイン調査），第2回修了生の土井誠博君（第4章の行動観察調査），佐伯謙吾君，崔乗日君，そして第3回修了生の日名子信君（第3章の都市環境装置の分布調査），田中敏雄君，千代田憲子氏の方々のご協力をいただいた。

そして，九州芸術工科大学の糸井久明教授には，本研究のまとめに際し常に暖かいご配慮をいただいた。また，論文の審査にあたり，佐藤陽彦教授，石村真一教授には，論文全体にわたり有効なご助言を賜った。

以上の方々に心より謝辞を申し上げ，この研究の成果を今後の都市環境の計画に生かしていきたいと考えている。

平成11年（1999年）8月